

## 第6回サルビア講座

## 女性を取り巻く社会情勢の変化と現代

開催日 平成 15 年 6 月 7 日

講師 本学看護学科教授

湯舟 貞子

## 1. 母性意識と子どもの虐待

近年女性の社会進出はめざましいものがあるが、結婚・出産により家庭に入り、育児に専念するのは女性の役割と、旧来どおりに位置づけられることが多い。

そして家族形態のうち核家族は1955年の1000万世帯から、現在2400万世帯へと増加し（厚生白書平成8年度版）、母親の育児孤立化が問題となっている。

## 2. 「母性」ということばの始まり

日本で「母性」という言葉が用いられるようになったのは1910年代後半の母性保護論争以後のことである。

1910年代から1920年代にかけて、資本主義の発展とともに勤労者家庭が現れた。この時の勤労者家庭は村落の共同体から離れた核家族としてであり、第一次大戦後の好調期で、女性の高学歴化と相まって職業婦人が現れた時期でもある。

## 3. 母性の構成要素

「母性」は発達する性として存在していると考えている。そしてこの発達する母性は女性の生涯において、個人が経験する多くのことや、これらのことから学習し身につけていく価値観や、その時々々の社会構造によって大きく影響される。

そして、このように母性が発達するということを想定したとき、母性の構成要素として、「母性愛」「母性感情」「母性意識」「母性行動」が考えられる。

## 4. 母性の両面性

「母性」はすべてを生み育てる肯定的な面（包含する、支える、育てる、実らせる）と、全てをのみ込んで死に至らしめる否定的な面（つかむ、誘い込む、のみ込む）の両面をもっている。太母は母なるものを意味しており、母性がこのように矛盾したものであるならば、どれだけ母性の肯定的な面が現れるか、どれだけ本能的な愛を超えて真に愛情深い母性もちうるかは、その人自身の人間性に基づくものである。

## 5. 女性とライフスタイル

近年の女性の高学歴化、社会進出、少産・少子化、晩婚・未婚化は、女性がかって人生の大半を家事と育児で過ごしたライフスタイルを大きく変えようとしている。

平均寿命の著しい伸びと、一生の間に産む子どもの数の減少。その結果、子どもを産む期間と育児に携わる期間は短縮されるが、子どもの教育期間、末子独立後の夫婦2人の期間、夫死亡後の寡婦期間には長期化がみられる。

## 6. 母性行動と母子関係

母性の身体的特性は先天的にすべての女性に備わったものであるが、母が子に対し特殊な感情をもつ

て子どものためにとる行動である母性行動は、動物と同様生来の母性本能に由来する部分もあるが、これがすべてではない。

アカゲザルの実験では、人工保育で育った子ザルには成長して子どもを産んだときに子どもを保護し、世話するという母親らしい行動が見られなかった。

### 7. 更年期障害の主な原因

- ・女性ホルモン分泌量の急激な減少
- ・子どもが成長し巣立つ事や、親の介護などによる環境の変化
- ・環境の変化に伴う社会心理的ストレス

簡易更年期指数（よく表れる症状）

簡易更年期指数（よく表れる症状）

症 状	強	中	弱	なし	
① 顔がほてる	10	6	3	0	
② 汗をかきやすい	10	6	3	0	
③ 腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0	
④ 息切れ・動悸がする	12	8	4	0	
⑤ 寝つきが悪い、眠りが浅い	14	9	5	0	
⑥ 怒りやすく、イライラする	12	8	4	0	更年期指数自己採点の評価法
⑦ くよくよしたり、憂鬱になる	7	5	3	0	0～25点：異常なし
⑧ 頭痛・めまい・吐き気がよくある	7	5	3	0	25～50点：食事・運動に注意
⑨ 疲れやすい	7	4	2	0	51～65点：更年期・閉経外来を受診
⑩ 肩こり、腰痛、手足の痛みがある	7	5	3	0	66～80点：長期間の計画的な散治療
合計点					81～100点：各科の精密検査、長期の計画的な対応

### 8. 20～30歳代なのに、もう更年期？

最近、『若年性更年期障害』が増えている。これは主にストレスによるものが多い。ストレスがかかると、脳がストレスに対応するためのホルモンを最優先に分泌し、卵巣への伝達が減少し、更年期と同じような症状が表れる。仕事が忙しい、人間関係の悩み、無理なダイエットは、ストレスになる。

### 9. 結果

1. 母性意識に肯定感を持っている人の方が、虐待行動が少ない傾向にある。虐待を防ぐには、母親を支えるための関係調整や支援体制の整備・充実が必要である。
2. ストレスにより女性ホルモンの分泌が減少し、若年の方にも更年期障害と同じような症状が表れる。

### 10. 結論

最近の日本社会を形容する決り文句は「情報」「ハイテク」「管理」「ストレス」である。大げさに言うと、カバーしきれぬほどの情報にあふれ、管理(システム)の網があらゆる局面を覆い尽くした、窒息しそうな社会という表現が自嘲的にもてはやされている現実がある。そのような時代に生きている私達であるからこそ、人間の存在と存在とが相まみえ、互いの人間性を交流していく。このことが上記2つの課題を解決する為にも重要となってくるのである。